



# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 2012年度植林ツアーに 過去最高の参加者(34名)

2012年度の植林ツアー(8月25日~9月2日)では、Thu Thay Kan 村と In Daing 村という新たな2つの村で1,000本の植林を実施する計画です。今回は、関東・関西の7つの大学の学生を含む、過去最高の34名の参加が見込まれています。

法政大学:	11名
拓殖大学:	7名
玉川大学:	5名
東京外国語大学:	2名
同志社大学:	2名
慶応大学:	1名
東京大学:	3名
<u>MJET 会員</u>	<u>3名</u>
合計	34名

参加者の特徴としては、学生からの参加者が増加したこと、女性参加者が54%と半数を超えていること、社会人からの参加者が少ないことなどが挙げられます。学生参加者の増加には次のような背景が挙げられます。

- ① 法政大学・長谷川教授のゼミおよび拓殖大学・藤本教授のゼミから計18名の参加
- ② 藤村会長が講義を行った玉川大学から5名、東京大学から4名の参加
- ③ アウンサンスーチーさんが国会議員に選出されるなど、民主化の進展が世界的に注目を集めるミャンマーへの急激な関心の高まり

また、ミャンマーのホテル料金が昨年のツアーと比較し、2倍以上にもなっています。これは、ビジネスや観光でミャンマーに流入する外国人が急激に増加したためであり、現地のホテルは、どこも満室状態となっているようです。

## Facebookで学生会員ネットワークの 飛躍的な拡大を目指します！

現在、学生部は主に東京外国語大学と慶応大学の学生から成っています。今年は、植林ツアーに参加する他大学の学生を含め、できるだけ多くの学生会員とネットワークで結ばれるよう、学生部のFacebookを立ち上げました。みなさんの参加を歓迎します。ぜひ情報交換をしていきましょう！関心のある方は学生部・古城のFacebookまでご連絡ください。

<http://www.facebook.com/#!/mariko.kojo>

## モニタリング・レポートの受領確認を

MJETの現地パートナーであるThe Nature Loversより、2010年、2011年に植林された木々のモニタリング・レポートが今年3月に植林寄贈者に送付されました。しかしながら、現地の電力事情が悪いため、インターネットの接続が悪く、送信が中断されてしまうことが度々あるようです。また、メールアドレスの変更により、送信できなかったケースもいくつかあるようです。モニタリング・レポートは2年間に4回、現地より送付されますが、受領できなかった方は、事務局までご連絡ください。事務局に保管されているデータベースより、届かなかった寄贈者に送信することができます。



2010年に植林されたユーカリ(6~7m)



# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## 第1回 MJET 勉強会を開催 「開発とは何か？」

2012年度第1回 MJET 勉強会が5月27日(日)、事務局にて開催されました。今回は拓殖大学・藤本耕士教授に「開発とは何か？」をテーマに、開発の定義や開発における問題点、また様々な問題を抱える中での開発への取り組みや目標について講義して頂きました。

当日は東京外国語大学、慶応義塾大学、法政大学、拓殖大学から12人の学生とミャンマーからの留学生のヤダナーさんが参加し、MJET 事務局が満員になる程の盛況でした。

どの国でも自分達の国をより良い国にしたいという思いは一緒である、という藤本教授のお話を受け、「自分の住んでいる日本という国をより良くするにはどうしたら良いか?」、また、私たちが活動を行っているミャンマーについては急速に国を取り巻く状況が変化していく中で、「今後、より良い国を目指すためにはどうしたら良いか?」、などを個人的には改めて考えさせられました。



藤本先生の講義を熱心に聞く学生参加者  
(眠っている人は一人もいません!!)

今回は学生部の参加者を対象とした勉強会でしたが、普段ミャンマーについて勉強している方々は

「開発」についての基礎となる概念の部分を、一方、MJET の活動に今年から参加する方々は、藤村会長やヤダナーさんの「ミャンマーにおいて開発はどうなるのか?」というお話も交えた勉強会により、開発の一般論とミャンマーという国が抱える開発問題について共に学ぶことができた勉強会でした。



懇親会後の記念写真

勉強会の後には懇親会が行われ、藤村会長やヤダナーさんの手料理が振舞われました。計4つの大学から集まった学生達の交流も深まったのではないのでしょうか。

次回の勉強会は6月23日(土)18時から、神田道夫 MJET 理事を講師に招き、「開発と環境」について、法政大学にて開催を予定しています。奮ってご参加ください。  
(MJET 会員 湯川知佳)

### 今後の勉強会予定

- ・6月23日(土)18時～ 場所:法政大学  
講師:神田道男理事 課題:「環境と開発」
- ・7月28日(土)18時～ 場所:法政大学  
講師:中嶋真美教授 課題:「観光と開発」
- ・8月11日(土)14時～ 場所:法政大学  
「植林ツアー準備」
- ・8月18日(土)14時～ 場所:法政大学  
「植林ツアー準備」



# ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012  
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



## ミャンマー紀行

### 「人の温かさ」が惹きつける不思議な国

ミャンマーの「人の温かさ」や「街並み」は昔の日本に通じるものがあるように度々感じます。私は昔の日本に生きた人間ではないのですが、ミャンマーは、心のどこかに懐かしさを覚えるそんな不思議な国です。

大学でひよんなことからビルマ語を学び、卒業後はミャンマーに触れる機会も特になく日々を過ごしていたのですが、ふと昨年、急に思い立ってミャンマーに一人旅に行ってきました。元来、出不精で出掛けるのもつつい億劫になってしまうことが多いのですが、ミャンマーには人を惹きつける何かがあるのでしょうか？自分でも不思議です。



バガンにて(筆者)

今回はヤンゴンとバガン、インレーを短い期間に駆け足で巡ってきました。ビルマ語も英語も忘れてしまい、どうしようかと不安でしたが、拙いビルマ語と英語が入り混じった“新たな言語”を話しながらどうか過ごしました。どうにかなるものですね！

そんな旅の中で強く印象に残ったのはやはり「人の温かさ」。これこそがミャンマーの魅力の一つ。今回の旅では友人の知り合いに会い、滞在時間が短い中、実家で営む食堂に招待して頂きました。一瞬の

出会いの中で人の優しさに触れるのはとても嬉しく、温かい気持ちになりました。



夕間に浮かぶバガンの寺院

海外に旅をするといつも様々なことを考えさせられます。自分とは全く違う文化で暮らす人々のこと。そして自分自身の人生のこと。海外旅行は自分自身を見つめ直す良いきっかけになる気がします。

次にミャンマーに行くのはいつなんだろう。今のところ予定はないのですが、また思い立って行ってしまってもいいかもしれません。そんな時を楽しみにしながら日々の生活を過ごしていきたいです。（MJET 会員 湯川知佳）



ヤンゴンのシュエダゴンパゴダ